

戸 田 市 教 育 委 員 会 会 議 録			
招 集 期 日	令 和 2 年 8 月 2 0 日 (木)		
場 所	戸 田 市 役 所 教 育 委 員 室		
開 会	8 月 2 0 日 午 前 9 時 3 0 分		
閉 会	8 月 2 0 日 午 前 1 1 時 1 7 分		
教 育 長	戸ヶ崎 勤		
教 育 長 ・ 委 員 出 席 状 況	戸ヶ崎 勤	出 席	
	仙 波 憲 一	出 席	
	鈴 木 晃	出 席	
	土 肥 美 奈 子	出 席	
	木 村 雅 文	出 席	
説 明 員	山上教育部長、星野参事、佐藤次長兼教育政策室長、		
	栗津副参事兼教育総務課長、片岡学務課長、		
	教育政策室田野担当課長、小須田学校給食課長、福田生涯学習課長、		
	関根生涯学習課課長、教育総務課榎本主幹		
書 記	教育総務課総務担当 香林副主幹、田仲主事補		
傍 聴 人	3 名		

会議の経過及び結果

教育長

市内の中学3年生は昨日から授業が再開され、中学1、2年と小学生は明日から再開となります。20日前後と例年よりかなり短かった夏休みですが、子供たちはコロナ禍にあっても様々な経験や体験をしてくれたものと信じています。

ところで、昨年4月の定例会のあいさつで、支配感を抱かせずに選好を変化させ自己決定に至らせるという知的戦略である「緩やかな介入主義(リバタリアンパターナリズム)」の話をしました。特に、肘で軽くつつく程度の介入や後押しである「Nudge」と、自尊心をくすぐったり手助けしたりする「Boost」を効果的に組み合わせることで、非認知能力が鍛えられるという話です。

このNudgeやBoostという手法は環境省などでも応用が始まっています。特に有名な例として、便器の内側に描いた一匹のハエの絵の話をしましたが、もう一つの事例として、トイレトペーパーのロールを手で押して、形を三角に変えてみる話もあります。3分の1回転する度、手にはロールから心地よい振動が伝わり、紙の使用量は三角形の方が約3割も少なくなるのだそうです。この場合、紙の引き出しにくさをそうとは思わせないのが仕掛けの肝だそうで、無駄遣いを抑えるのに、強要ではなく行動を誘うちょっとした工夫が大切だという好例です。他にも、不法投棄の多い場所に小さな鳥居を置くだけでごみは捨てられなくなるそうです。罰当たりな行為を慎ませる「鳥居誘導効果」と言われています。

それらに比べ、先月7月1日よりレジ袋不要の人を6割にすることを目標に始まった「プラスチック製買物袋の有料化」は工夫より腕力が前面に出ている気がします。海洋生物を脅かすプラスチックごみの削減に向け避けて通れない道とは理解しているものの、環境への負荷を下げる「仕掛け」は他にもあるのではないかと考えてしまいます。

私も参加していた経済産業省の「『未来の教室』とEdTech研究会」では、

	<p>課題先進国から課題解決先進国を目指し、様々なカイゼンやイノベーションを生み出すことのできる「チェンジ・メイカー」の育成について議論していました。「チェンジ・メイカー」は少数のエリートやリーダーといった「偉大なる社会改革家」ではなく、一人ひとりが様々な分野で身の回りをよくすること、すなわち「50センチ革命」を起こすことが必要であるとしました。是非とも子ども身の回りで「50センチ革命」を起こせるチェンジ・メイカーになって欲しいと強く思っています。</p>
教育長	<p>ただ今から、令和2年第8回戸田市教育委員会定例会を開会いたします。はじめに、事前に会議録の内容を見ていただいておりますので、御異議がないようでしたら承認ということでよろしいでしょうか。</p>
各委員	<p>了承しました。</p>
教育長	<p>それでは、会議録に御署名をお願いします。</p>
各委員	<p>署名</p>
教育長	<p>次に、秘密会となる案件につきましてお諮りいたします。次の案件については、公開することにより事務の公正な執行に支障が生じる案件、個人情報及び人事案件となりますので、秘密会で行うこととしてよろしいかお諮りいたします。</p> <p>「報告事項①令和2年度第1回海外留学奨学生について」、「報告第18号戸田市海外留学奨学資金等受給者選考委員会委員の委嘱について」、「議案第25号令和2年度一般会計（教育委員会関係）9月補正予算（案）」については、個人情報及び人事案件、議会案件となりますので、秘密会で行うこととしてよろしいかお諮りいたします。</p>
各委員	<p>異議なし</p>
教育長	<p>それでは「報告事項①」、「報告第18号」、「議案第25号」は、秘密会とすることに決定いたしました。</p>
教育長	<p>はじめに、「教育委員提案」について御報告いたします。以前の教育委員会にて委員より御質問のあった件について報告がございます。</p>

	<p>① 中学校における授業改善～10年前と比較して子供たちの学びの姿勢が生み出された要因について（仙波委員・鈴木委員・土肥委員）</p> <p>それでは、仙波委員、鈴木委員、土肥委員から御提案のありました教育委員提案①「中学校における授業改善～10年前と比較して子供たちの学びの姿勢が生み出された要因について」につきまして事務局より説明願います。</p>
事務局	<p>今回の教育委員提案は、仙波委員さんから御提案の「10年前と比較して児童生徒の学びの姿勢が生み出された要因について」を、教育政策室が教育総務課や学務課と連携し、過去10年間の様々なデータを比較・検討・分析してまいりました。感覚的に見ても、子供たちの様子や学校の状況は非常に落ちついてきたと感じられますが、改めてこの10年を振り返ってみますと、一部の中学校における生徒指導面での課題や全ての小・中学校での授業形態の変化等が見えてきました。そこで、土肥委員さんからの御提案の「中学校の授業改革について」と、鈴木委員さんからの御提案の「学力・学習状況調査の機能や特色、戸田市が身に付けさせたい能力について」も、関連性がございますので、今回まとめて教育政策室で御説明させていただきます。後ほど、ご質問等につきましては、それぞれの担当課でお答えいたしますので、よろしくお願いいたします。</p> <p>1 ページ目の下段を御覧ください。先ほど「感覚的に見ても落ち着いてきた」と申し上げましたが、この数値は暴力行為の件数の変化です。平成20年から22年の平均は67.6件だったのが、平成28年から30年の平均は、38.3件と減少しているのがわかります。暴力行為の内訳で最も多いのは生徒間暴力で、ここについてあまり差はありませんが、平成20年から22年は、この他に対教師暴力や器物損壊といった数値が目立ちました。この数値からも、生徒指導面での課題が浮き彫りになっています。</p> <p>2 ページ上段を御覧ください。授業についてもこんなイメージはありませんか？ひたすら教師が話す、板書をひたすら書き写させる、一部の発言者と教師の一問一答の繰り返しなどなど。まだ一部の教師は、こういう授</p>

業から脱却できていないこともあります。以前は小・中学校ともによく見られた授業スタイルです。

2 ページ下段を御覧ください。子供たちの学ぶ姿勢や教師の授業改善の大きな転機の一つとしてあげるとすれば、小学校は今年度、中学校は来年度完全実施となる学習指導要領の改定です。これまで重視されていた「何を学ぶか」だけでなく「どのように学ぶか」も重視して主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善について触れられています。

3 ページ上段を御覧ください。これまでの生徒の受け身的な学び、いわゆるパッシブラーニングから、能動的な学び、アクティブラーニングへの転換を教師に突きつけました。戸ヶ崎教育長が校長時代によく使われていた「生徒指導の王道は学力向上にあり」という言葉のとおり、学力向上に向けた授業改善は確実に子供たちの学びの姿勢に大きな変化をもたらしました。

3 ページ下段を御覧ください。さらにもう一つ大きな転機として、学校のICT環境の整備があげられます。すでに御承知のとおり、教育総務課との連携でここまで急速にしかも計画的に導入が進められてきました。現段階で国のICT環境整備目標である3クラスに1クラス分程度の学習者用パソコンは達成しています。今年度中にGIGAスクール構想の国の補助で一人1台相当を達成する予定です。こうした環境整備により、学習の形態は大きく変わってきたことはいまでもございません。

4 ページ上段を御覧ください。ターニングポイントとして外せないのが、平成26年度の喜沢小と笹目中への無線LAN先行導入ではないでしょうか。これを機に、パソコンはパソコン室だけで、という考えではなく、どこでもタブレットが使えるという発想から、先進的な授業を創造することが可能となりました。この年に大々的に行われた笹目中学校の研究発表会では、Google Apps for Education やタジックアース、ゲームニクス、協調学習に反転学習などなど、今となってはメジャーとなった言葉ですが、当時聞き慣れない言葉ばかりで新しい学びをデザインしていました。もちろん当時の笹目中の校長先生は戸ヶ崎教育長です。

これを参観された当時の多くの先生方は、ちょっと先の未来、つまりちょうど現在くらいの授業の形を先取りして見たことになります。当時の笹目中学校が生徒指導面でたくさんの課題を抱えていた学校だったこともあり、「こんなのは笹目中だからできたのだ。」とネガティブに捉えた方よりも「うちの学校でもできるかも。」と勇気を得た学校の方が多かったのではないのでしょうか。

4 ページ下段を御覧ください。教師の意識改革がこのあたりから大きく進み始めます。授業を展開する上で、子供たちが「どのように学ぶのか」を意識するようになりました。

5 ページ上段を御覧ください。このイラストは、平成25年に文部科学省の「学びのイノベーション事業」において、実証校で実践されたICTを活用した授業を、学習場面をもとに類型化したものです。こうした実践例をもとに本市でもICTをマストアイテム化した授業改善に取り組んでいきました。

まずは、一斉授業における教材等の拡大提示が基本としてあげられます。これについては、平成22年度に市内全小・中学校に導入された大型提示装置のおかげで当たり前のように使われております。

個別学習や協働学習についても、学びのプロセスや成果を的確にキャッチ&レスポンスするために、ミライシードやロイロノートといった学習支援ツール等や最近ではグーグルアカウントを利用したGsuiteを活用し様々な実践が見られるようになりました。

ICTは、時間的・空間的制約を超えること、双方向性を有すること、カスタマイズが容易であることなどがその特長としてあげられますが、今回の臨時休業期間中のオンライン学習でもその点について、改めて良さとして感じられました。前回の教育委員提案でも触れましたが、先生方もICTの良さや利便性を感じ、さらに積極的に利活用しようと、各校の自走が進んでいます。

5 ページ下段からは、ICTの積極的な利活用の実践例です。教科書や教材等の拡大提示や6 ページのグループでの意見交流、自分と友達の解釈の比較など、各校で様々活用されているのは、これまでの学校訪問や研究発表会でも御覧いただいているとおりです。

7 ページ上段を御覧ください。ポイントの一つ目として、これまではICT機器を使うことが目的となっていた授業も多々見られましたが、ICT機器を使い授業のねらいを達成することを目指すように変化してきたことがあげられます。

7 ページ下段からは、対話を引き出す学習形態としてインプットとアウトプットの対流による思考の活性化を促すためにICTを活用したり、教師がファシリテーターとなってキャッチ&レスポンスによる指導と評価の一体化を図ったりする様子も見られるようになりました。

8 ページ下段を御覧ください。ポイントの2つ目として、一方的な講義形式の授業からアクティブラーニングの視点での授業改善に積極的に取り組み始めていることがあげられます。

9 ページ上段を御覧ください。授業改善により感覚的に落ち着いてきたイメージだけでなく、実際に数値の面でも変化が現れています。本市が独自で行なっている「授業が分かる調査」では、中学校の5教科で「授業が楽しい」と回答している生徒の割合が、平成22年度から令和元年度の10年で約12ポイント向上しています。教師の話を一方向的に聞いているだけの受け身の授業から子供たち同士の対話や交流などアクティブに学ぶ授業が増えてきていることが要因と捉えております。

9 ページ下段を御覧ください。また、情意面だけでなく、全国学力・学習状況調査の中学3年の数学ABの全国平均得点率との差を見てみると平成21年から30年の10年間で数学Aでは9.2ポイント数学Bでは10ポイント向上し学力面でも伸びていることがわかります。

10 ページ上段をご覧ください。質問紙調査を見ると「先生はあなたの

よいところを認めてくれていると思いますか。」という項目では、平成26年度と比べて7, 8ポイント向上し、全国の伸びと比べても高くなっています。

さらに、10ページ下段をご覧ください。「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか。」という項目では、12.8ポイント向上し、全国と比べても大幅に上回っています。

こうした調査における数値でこの10年を見ても、子供たちの変容が見て取れます。本市ではこうした各種調査で得た数値結果を様々な教育施策と紐付けながら効果検証をしているところです。

11ページには上段をご覧ください。本市で行っている主な学力調査です。先ほどから話に出ている全国学力・学習状況調査や埼玉県学力・学習状況調査の他にも、戸田市教育委員会が行なっている小学4年生から中学2年生を対象とした学力調査もあります。これは、埼玉県学力・学習状況調査と同様IRT（項目反応理論）に基づき作成されていて、個々の定着度の伸びを把握することができます。今年はコロナの影響で4月に行えませんでした。例年は4月に全国学力・学習状況調査と埼玉県学力・学習状況調査で前年度の取組の効果検証を行い、1月に戸田市の学力調査で当該年度の取組の効果検証と次年度への課題把握を行い、PDCAサイクルを確立しております。

11ページ下段は、これまでもご説明している通り、とだっ子に育みたい資質・能力となっております。こうした資質能力を育むために、これからも授業改善を進められるよう学校を支援・指導してまいります。

最後になりますが、12ページをご覧ください。学務課から提供の戸田市転入者及び新規採用者の面談における意向の理由や印象のまとめとなっております。これを見ても、ここまで説明してきたことと重複する部分がたくさん見られると思います。戸田市の施策が充実してきていることが、この10年の成果として子供たちの学ぶ姿にも現れているのではないでし

	ようか。
教育長	何か御質問等がありましたら伺います。
委員	暴力行為の発生件数が減少した理由は何でしょうか。
事務局	10年間の変化で学校では生徒指導に追われるだけではなく、授業改善として子供たちの楽しい居場所づくりを進めてきたことが原因ではないかとか感じておりますが、数値的な因果関係は掴めておりません。
委員	ありがとうございます。
教育長	全国でも件数が減っているということは、社会の変化があるのではないのでしょうか。戸田市では子供の数は増えているのに対して、暴力行為が様々な要因で減っています。学校訪問で教育委員の方々はどのような印象をお持ちですか。
委員	<p>報告を聞いて、よく理解できました。戸田市の教育でやって来た実践が功を奏したと思います。教育長が話されていた子供たちが社会の中でどうやって自分の居場所見つけていくかという中で、ICTの導入が正解であったこと、全体の中で個別最適化が図られたこともあると思います。親、地域、校長が温かい心で子供たちを見守って来たことと思います。</p> <p>今度どう進んでいくのが問題で、学校内で子供たちの居場所を位置づけ、学校が楽しいということの成果として自信を持った子供が増えました。今回の新型コロナウイルス感染症対応として、各家庭のICTが整っているかどうか個別の環境があると思いますが、どのようにバックアップしていくのか見直していただき、今までやってきたことが、間違っていないかということを確認しながら、これからも取り組んでいただきたい。</p>
教育長	今回の報告では、都合のよい内容だけ報告に持ってきたのではないかと言われなくても限りません。例えば、小学校と中学校を比べると、小学校が進んでいるのになぜ中学校でやっていないのかというような課題意識を持っていることをデータで触れられるとよかったのではないのでしょうか。

<p>委 員</p>	<p>小学校に比べて中学校は、なぜというところなのですが。チョーク&トークの講義型、パッシブラーニングからアクティブラーニングへの転換とあります。中学校では受験を見据えて行かなければならないという部分がありますが、どうしたら講義型の先生が変わっていただけるのでしょうか。授業が変わってきている中で、授業が楽しいという率が増えてきています。その結果成績が伸びて、子供たちが先生に認められているというデータを見ると、やはり講義的な授業だけではなく違うやりかたが必要なのではないのでしょうか。</p> <p>また、そういった先生をどのようにしたら変えていただけるのでしょうか。</p> <p>中学校では、指導案で ICT を使っていると言っても、一向に変わらない画面を映しながら授業を行っていたり、グループワークをやらせれば協調学習ができているという授業では、先生はどのように関わっているのか疑問を持っています。アイテムを上手に使って先生同士でどのように共有して行くのか、講義的な授業の先生の自己満足の授業では、生徒はおもしろくないのではないかということを感じたので、今回の提案を出しました。今でも授業は変わってきているので今後の更なる期待をします。</p>
<p>教 育 長</p>	<p>二つ大事な視点があり、一つはなぜ中学校で授業改善がなかなか進まないのか、二つめは授業改善が進まない先生への指導や助言の方策は、ということによろしいでしょうか。</p>
<p>事 務 局</p>	<p>この夏の校内研修会の様子を見ていると変わり始めています。これまで、中学校では教科担任制で教科の壁を超えるのがなかなか難しい中で、全体での校内研修が進みにくい課題があったと伺っております。最近の傾向では教科を横断した学びの中で、今年の夏ではいくつかの中学校で PBL の研修が行われ、教育委員会からも指導主事を派遣しております。昨日も特別支援の視点で授業改善の全体研修が行われ、教科を横断した共通のテーマで研修が設けられるようになりました。</p> <p>このように、校内研修のあり方が少しずつ変わってきています。期待を込めて、2学期以降もこのような点を学校訪問で見て行きたいと思えます。</p>

	<p>学校内での研修交流で、授業のやり方を情報共有することがまず第一歩だと思います。</p>
<p>教 育 長</p>	<p>I C TやP B L、特別支援教育は、教科の壁を超える手法になります。中学校の教師は、自分の専門に対してはこだわりやプライドがありますが、教科横断的な学びやプロジェクトベースでの学びでは、どのように自分の教科でサポートできるか共同的に行うのがひとつの肝であり、また、I C Tは教科を超えて使うポイントは同じなので、共有化出来る部分があります。</p> <p>また、それぞれの校内研修の様子をオンラインで他の中学校と共同で行うのも一つの方法かもしれません。</p>
<p>事 務 局</p>	<p>共同研修として、明日は中学校 1 校が講師を呼んで校内研修を行いオンラインでつなぐことを小中学校全校に情報を流し、近隣の学校からオンラインで全職員が参加するとの連絡が入っています。また新しい動きがありましたら逐次報告いたします。</p>
<p>教 育 長</p>	<p>研修で講義形式だけではなく、市内の中学校の先生が活発な議論をしている研修の様子を、同じ中学校の別の先生が見ることに意味があります。積極的に取り入れていただきたいと思います。</p>
<p>委 員</p>	<p>報告は、戸田市が変わってきた様子が良くまとめられています。中学校の授業が変わってきたことも学校訪問でわかります。小学校は教育内容と指導方法がうまくバランスが取れています。中学校は教育内容はきちんと伝えていますが、指導方法は一方通行です。数学では、例えば一次関数ではなぜ ICT を使わないのか、大変なのはわかりますがもっと挑戦してみてもよいのではないのでしょうか。授業の見学時には、ICT を初めて使ったような感じでやっています。</p> <p>中学校の先生は、きちんと板書ができるようになり、ループリックを使い、ねらいや振り返りがきちんとできるようになり授業が変わって来たと思います。</p>

	<p>現在戸田市の学力調査では、全国学力・学習状況調査は資質能力からどこまでできているのか全国での共有であり、埼玉県学力・学習状況調査は、一人一人がどこまで伸びたか、戸田市の学力状況調査は、どのような授業が学力を伸ばしたのかを確認する3本柱でやっています。</p> <p>しかし、いつか改善しないと現場では大変だと思います。平均を超えれば、目指すプランで進めることができれば、おもしろい気がします。</p>
事務局	<p>学力・学習状況調査は、全国、埼玉県が例年は4月にあり、1月に戸田市学力調査があり、その年の先生の取組を振り返るきっかけとなります。年間3本の調査を分析してつなげていくサイクルを徹底していきたいと考えています。</p>
教育長	<p>それぞれ、学力調査の役割が違うものとなります。全国調査はなんで悉皆でやっているのか問われており、抽出した学校だけ受ければという意見もありますが、個々の児童生徒の調査結果に基づき授業改善に資するには悉皆調査でないとできません。</p> <p>また、埼玉県学力・学習状況調査は、毎年のパネルデータで設計されているため、受験しないと後の学力の伸びや状況がわからなくなります。</p> <p>戸田市学力・学習状況調査は、年度末に受験した結果がすぐにその年度内にわかるので、補完的な学習をその年度内に行うことができます。</p> <p>3本は多いのではということは検討課題ですが、それぞれ役割が違うので難しいです。</p>
事務局	<p>色々な子供たちの能力を測って行く上で、学力調査だけではなくて、リーディング等色々なテストをやることも必要なのでやっています。求められる能力がどんどん広がっている中で子供たちがどう伸びているのか、どう改善していくのか、測り方はなんでも測れば良いのではなく、効率的な学力の調査が検討課題だと思っています。</p>
教育長	<p>重要な視点です。ある会社とのオンラインミーティングの中で、学力とは、ビッグファイブ（パーソナリティ特性の分類法）と言われる協調性等</p>

	<p>(5つの要素の一つ)とのスキルとの連携もやっていかなければならないし、可視化できるものに限らないものです。EBPMで客観的な根拠に基づく政策立案を行う際にデータは不可欠で、それがなければ経験と勘に基づく分析になってしまいます。そのあたりのことについて、本日、この後、東京大学に行って今後の在り方について助言を受けてきます。</p>
<p>教 育 長</p>	<p>続きまして、「報告事項」について申し上げます。本日は「その他」を含めまして2件の報告がございます。秘密会以外の詳細につきまして、各所属長より報告いたします。なお、御質問につきましては、すべての報告が終了した後伺います。</p>
<p>事 務 局</p>	<p>資料は、右上に「資料 No 2」と記載された報告事項でございます。それでは、資料3ページの報告事項②の「埼玉大学・戸田市連携講座の開催」について報告いたします。</p> <p>新型コロナウイルス感染症の影響により、生涯学習課主催の講座は本年2月下旬から6月末まで休止しておりましたが、7月に公民館で市民大学を開講し、資料のとおり、埼玉大学連携講座を9月19日(土)から全4回でご覧の講座を開催いたします。3日目は「感染症と数学」というテーマで、ワクチン政策などを考えるときに、人口規模に応じて感染症がどのように広がっていくのか数学的に明らかにし、感染拡大を制御するためにどのように介入すべきか考える感染症数理モデル等を講義いただく予定です。</p> <p>なお、埼玉大学連携講座については、平成23年度から開始し、今年度で10年目を迎え、年々、認知度も高まっているところです。定員は例年40人から50人程度を設定していますが、今回は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、座席を間引き、18人として実施いたします。8月3日から申し込みの受付を開始しましたが、半日で定員に達し、現在はキャンセル待ちの状態となっております。市民の皆様も市民大学認定講座の開催を待ち望んでいらっしゃることを痛感いたしました。また、チラシの裏面にありますとおり、新型コロナウイルス感染防止対策掲載し、事前周知を図っております。</p>

教育長	次に⑤その他ですが、事務局より何かありますか。
事務局	特になし
教育長	以上で、「報告事項」が終わりました。何か御質問等がありましたら伺います。
委員	4回目の「易しい問題、難しい問題」とはどのような内容ですか。
事務局	理工学の電子情報の信号処理とかアリコリズムを、実生活にどのように役立っているかということ、市民目線でご講義いただく予定です。
委員	昨年までの埼玉大学・戸田市連携講座でも定員は一杯でしたか。
事務局	平成29年度までの8年間は定員40名でしたが、昨年度は定員50名で実施しました。年度によって定員に達していない場合もありましたが、受講者数は伸びていると思います。
教育長	コロナウイルス感染症が加速している中でも、市民大学に対するニーズは高いようです。オンライン講座は考えているのですか。
事務局	現在のコロナ禍でオンライン講座の検討を進めています。講師によってはオンラインで流れることにセキュリティを含めて否定的である課題がありますが、オンライン化を進めていきます。
教育長	技術的には難しくはなく、不特定多数ではなく、限られたIDを持っている受講者へ公開するのだから、今年度中にも実施すると市民の方々が満足するのではないのでしょうか。是非検討いただきたいと思います。
教育長	それでは、続きまして「議案第26号 令和3年度使用中学校用教科用図書（各教科）採択について」事務局より説明願います。
事務局	これまで教育委員の皆様には、教科書研究を詳細に行っていただき、ありがとうございました。8月6日に、蕨市役所にて、蕨市と戸田市による第2回埼玉県第四採択地区の採択協議会が開催されました。戸ヶ崎教育長と仙波委員には、採択協議会の委員として長時間にわたり、慎重な審議を

	<p>行っていただき、誠にありがとうございました。</p> <p>それでは、別紙の「令和3年度使用中学校用教科用図書選定結果と採択理由案」を御覧ください。こちらは第四採択地区における中学校用教科書の選定結果です。左側に種目と会社名、右側に戸田市としての「採択理由」の案になります。</p> <p>このあと、これらの選定結果を踏まえ、戸田市としての教科書の採択について御審議のほどよろしく願いいたします。</p>
教 育 長	<p>それでは、事務局から説明がありましたが。御意見・御質問等がありましたら伺います。</p>
委 員	<p>採択協議会では、中学校の教科書選定にあたり、どのような観点からの意見が出されましたか。</p>
事 務 局	<p>委員の皆様からは、新学習指導要領が目指す主体的・対話的で深い学びや教科等横断的な学びの実現という観点から多くの意見が挙げられ、活発な協議が行われました。</p> <p>その他には、デジタルコンテンツを活用した教科書の在り方や、SDG s など持続可能な社会づくりに向けた内容の有無、ユニバーサルデザインへの配慮など各教科書の工夫されている点を取り上げられました。</p>
委 員	<p>保護者の意見はどのように扱われたのでしょうか。</p>
事 務 局	<p>保護者の方の御意見については、戸田、蕨、両市のPTA連合会から代表者を選出いただき、その代表者に教科書研究を行っていただきました。その報告書を採択協議会で事務局が委員の皆様へ報告いたしました。研究報告として協議に反映させていただいております。</p>
委 員	<p>学校からの意見についてはどうでしょう。</p>
事 務 局	<p>学校からの意見については市内全中学校の教員が、市の教育センターで開催した教科書展示会に多数参加し、各学校で研究報告をまとめ、採択協議会の委員に目を通していただき、選定にあたっての参考としていただい</p>

	ております。
委員	<p>私からもよろしいでしょうか。どの教科書もそれぞれに特色があり、よい教科書でありましたし、採択協議会において各種目より1者の教科書を選定することは大変難しいものでした。しかし、その中からどの世代の先生も子供たちも使いやすいもの、新学習指導要領が目指す自ら学び続ける子供の育成という視点から、補助資料や時代に応じたデジタルコンテンツなどが充実しているものを中心に選定しました。</p> <p>事務局の皆さんには、この新しい教科書に学校の先生方がスムーズに移行できるよう、支援をいただければと思っております。</p>
事務局	<p>今後、学校は新しい年間指導計画の作成に向けた取組を今年度のコロナ禍への対応とともに行っていくこととなりますので、学校訪問などの様々な機会を捉えた支援のほか、最新情報の提供など、引き続き学校への支援を行ってまいります。</p>
教育長	他にいかがでしょうか。
教育長	よろしいでしょうか。
教育長	<p>それでは、戸田市教育委員会として第四採択地区からの選択結果のとおり採択することとしてよろしいでしょうか。</p>
委員	異義無し
教育長	異義無しと認め、議案第26号は提案内容のとおり採択いたします。
教育長	<p>それでは、他に質問等がないようですので、続きまして「議案第27号 戸田市立図書館・郷土博物館の特別整理期間における休館について」事務局より説明願います。</p>
事務局	<p>議案第27号「戸田市立図書館・郷土博物館の特別整理期間に伴う休館について」御説明いたします。</p> <p>資料は、9ページ、10ページでございます。戸田市立図書館条例第6</p>

	<p>条において、図書館の特別整理期間による休館を規定しており、表の期間のとおり、蔵書点検等を実施するために休館するものでございます。</p> <p>また、郷土博物館では、中央図書館の特別整理期間に合わせて、戸田市立郷土博物館条例第6条に基づき、収蔵庫の清掃及び資料の点検・整理等を実施するため、休館するものでございます。</p> <p>説明は以上となります。よろしくお願いたします。</p>
教 育 長	何か質問がございましたら伺います。
教 育 長	それでは、他に質問等がないようですので、議案第27号は提案内容のとおり議決いたします。
教 育 長	それでは、質問等がないようですので、次第の6その他の「次回の教育委員会の日程（案）」について、事務局より説明願います。
委 員	次回、教育委員会定例会の日程ですが、9月17日（木）午前9時30分からの開催について、お伺いたします。
教 育 長	それでは、次回の教育委員会定例会の日程は、事務局（案）のとおりでよろしいでしょうか。
委 員	了承
教 育 長	それでは、次回の教育委員会定例会の日程は、事務局（案）のとおり決定いたします。次に、その他ですが、事務局から何かございますか。
事 務 局	特になし
教 育 長	委員の皆様から何かございますか。
委 員	中学校の部活動の件ですが、クラスターが心配されています。今後長く続くこととなるので、コロナ禍の部活動の在り方について伺いたい。
教 育 長	できるだけ早くに報告申し上げたいと思います。教育政策室で対応願います。

委員	デジタル教科書の展望についてお願いします。未来に向けての環境の整備を伺いたい。また、芦原小学校で学校だよりにオンライン学習アンケートが掲載されています。家庭・地域でアンケート結果が共有されていることは素晴らしい。
教育長	地域で学校の情報を積極的に共有していただきたいことを校長会等で伝えていければと思います。デジタル教科書と大型提示装置については、教育総務課で対応願います。
事務局	教育総務課において、教育政策室と調整して対応します。
委員	今回の議論の中での質問ですが、指導方法が教育の内容や教科の枠を超えるということについて、理念的ではなく、現場として指導方法をどうお考えになるのか教えていただきたい。
教育長	教科の内容を超えるということよりは、教科の内容は学習指導要領において定められていて、学びのプロセスの中で算数に理科の視点を入れていく、また教科等横断的学びの「等」とは、総合的な学習の時間の中や特別活動の中で、そうした視点を入れていこうというようなことであり、示された内容を飛び超えて行くのではなく、教科としての枠を超えることです。歴史的には古くからあり、PBL プロジェクトベースはまさにその一つですが、一言で言うとイメージがわからないかもしれません。具体的には「教科等横断的学び」とはどのようなものか、次回以降やりましょうか。
委員	教科書選定の中で、他の教科との連携が意識されて明記されているものが以前より増えて来ていると感じました。 学術の世界では、総合領域とか、抽象的複合的に議論する形はあるのですが、小中学校の指導法として、現場としてその際の指導法、教科の横断、教科の垣根を調整するのは現場としてどういう風にやっているのか教えてほしい。
教育長	まさにカリキュラムマネジメントです。どのようなものが教科等横断的な学びであるか取り上げていくということで、事務局よろしいか。

事務局	はい。
事務局	ここで1度、オンライン傍聴の画面を閉じさせていただきます。
教育長	それでは、質問がよろしければ、「報告事項①、報告第18号及び議案第25号」を議題といたします。秘密会とすることに決定しておりますので、説明員で議案に係る職員以外は退席願います。
教育長	「議案第25号 令和2年度一般会計教育委員会関係9月補正予算(案)について」事務局より説明願います。
事務局	学校給食課でございます。資料2ページ下段の歳入の部分でございます。国庫支出金の学校臨時休業対策費補助金です。これは新型コロナウイルス感染症対策のため、国の要請に基づき学校が臨時休業となった期間の給食費が保護者の負担とならないよう返還するための費用、及び食材のキャンセルができなかった部分にかかる費用の、4分3にかかる補助金の交付決定に伴う計上でございます。
事務局	資料3ページをご覧ください。赤字の部分が今回の変更箇所となります。学校の側からの要望で水道の蛇口を回すものからレバー式に変更して感染リスクを下げるもので、国の補助金で対応できるため予算科目を備品から修繕に変更したため、内訳が変更となっております。 また、小学校学習系学習者用パソコンの保守期間が1年間伸びることにより、現年の予算金額が減額修正となります。 資料4ページは、同様に中学校の水道蛇口レバー及びパソコン保守期間の延長によるものです。 資料5ページは、小・中学校学習系学習者用パソコン保守業務の保守期間が1年延長に伴う債務負担行為の期間及び限度額の変更となります。
教育長	何か質問がありましたら伺います。
委員	特になし

